

研究主題「主体的に他者とつながり、よりよい生き方について考えを深める児童の育成 ～『特別の教科 道徳』における効果的な問いの設定と対話的な学習活動の工夫を通して～」を基盤とし、道徳科での学びを軸に、児童の他の教科における思考力・判断力・表現力・対話力・自己調整力の向上を図ることを目的とする。

児童の実態

本校の児童は、素直で明るく、友達同士の関係もおおむね安定しており、日常的に笑顔で過ごす姿が多く見られる。このように、安心して学び合える人間関係の基盤は整っている一方で、自分の考えを自分の言葉で表現することに不安を抱き、間違いや他者との違いを避けようとして周囲に合わせてしまう姿が見られる。そのため、他者と関わる場面において、自らの思いや考えを主体的に形成し、共有しながら深めていく経験が十分とはいえない。

そのようなことから、学力においても、学習過程において「深める」ということができないまま、表面的な理解や機械的な技能にとどまり、特に、思考・判断力においては課題を抱えている学年もある。

箱崎小で育成する資質・能力

特別の教科 道徳科における学力

★ 道徳的判断力 ★ 道徳的心情 ★ 道徳的实践意欲 ★ 道徳的態度

学力向上との接続

- 【思考力・判断力】 多面的に捉え、課題の解決に向けて主体的に判断する力
- 【表現力】 自分の考えを言語化する力
- 【対話力】 他者の意見を受け止め、考えを深める力
- 【自己調整力】 学びを振り返り、次に生かす力

学力向上のための数値目標

ベネッセ学力テスト結果における全国平均正答率と自校各学年の差を昨年度より改善する

【授業改善の具体的手立て】

- 的確な児童の実態把握と本時のねらいを明確にする。
- ◎児童の主体的な学びを促す問い（発問）を設定する。
- 個に応じた学びの場や学習方法を工夫する
- 児童が自分で調べ、自分で考えるなどする時間を意図的に設定する。
- ◎問いづくり/見通し/調べる/ねり上げるなどのあらゆる学習過程において対話的な学習活動をねらいに応じ意図的に設定する。
- 児童が試行錯誤できる学習活動を創出する。
- 毎時間の児童による「振り返り」を位置づける
- 学習評価の充実→「評価と指導の一体化」

【学習環境の整備】

- 児童の個別学習や協働的な学びのための環境づくり
(オクリンクプラス、Google classroomの効果的活用)
- 学習支援の充実（支援員の効果的配置）
- 個に応じた学びを保障するため、SCや特別支援学校との連携し、支援あり方を協議する。

【家庭や地域との連携】

- 授業における外部人材活用により、児童の主体性や表現力を高める。
- 学習について家庭へも情報を発信し、理解や連携を深める。

成果と課題の検証

① 授業における教師による児童の評価

- ・エピソード記録（学び&実践の質的データ）
- ・授業中の対話の質の変化（逐語記録の抜粋）
- ・児童の振り返りコメント（自己認知/質的データ）による児童の変容を分析

② ベネッセ学力テストにおける学力水準の分析

- 1年生：正答率全国平均と自校とを比較
- 2～6年生：正答率全国平均との差を昨年度と比較